

東京経済大学大学院
経済学研究科 入学試験
(2026年度 1期入試)

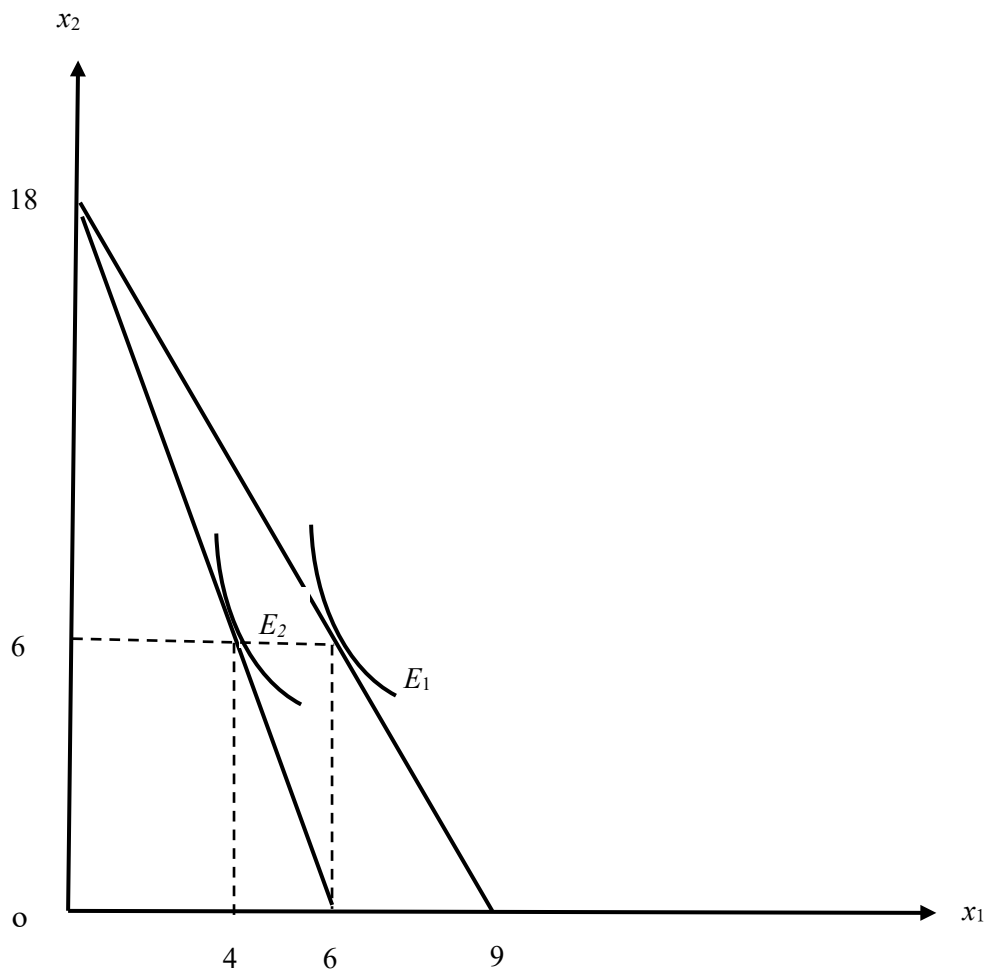
課 程	修士課程
入試区分	留学生入試
試験科目	理論経済学
出題意図	志願者本人が希望する専修科目に関して、学士レベルでの専門的な知識及び理解力、論理的な思考力を問う問題である。
解答例	<p>[1]</p> <p>1. 1) $2 \frac{x_2}{x_1}$</p> <p>1. 2) $x_1=x_2=6$</p> <p>1. 3) $x_1=4, x_2=6$</p> <p>1. 4) 別紙 1</p> <p>1. 5) 別紙 2</p> <p>1. 6) まず、x_1財への消費税の課税が行われると、代替効果により相対的に安価になった x_2財の消費量は増え、所得効果により実質所得の減少を通じて x_2財の消費量は減る。よって、x_2財の消費量に与える全部効果は自明ではない。しかしこの問題のモデル設定では、x_1財への消費税の課税の結果、x_2財の消費量に与える代替効果と所得効果が相殺されるので、x_2財の消費量は x_1財への消費税の課税前と同じ水準になる。</p> <p>[2]</p> <p>2. 1) $p=15, x=2$, 利潤=2</p> <p>2. 2) 別紙 3</p> <p>2. 3) 別紙 4</p> <p>2. 4) $\frac{2}{5}$ (=0.4)</p>

	<p>[3]</p> <p>3. 1) $x_1=x_2=6$, 企業 1 の利潤 = 36, 企業 2 の利潤 = 36</p> <p>3. 2) 別紙 5</p> <p>3. 3) $x_1 = 9$</p> <p>3. 4) 別紙 6</p>
--	--

※ 公開している入試問題等について、私的利用以外の目的で複製・転載・転用することを一切禁じます。

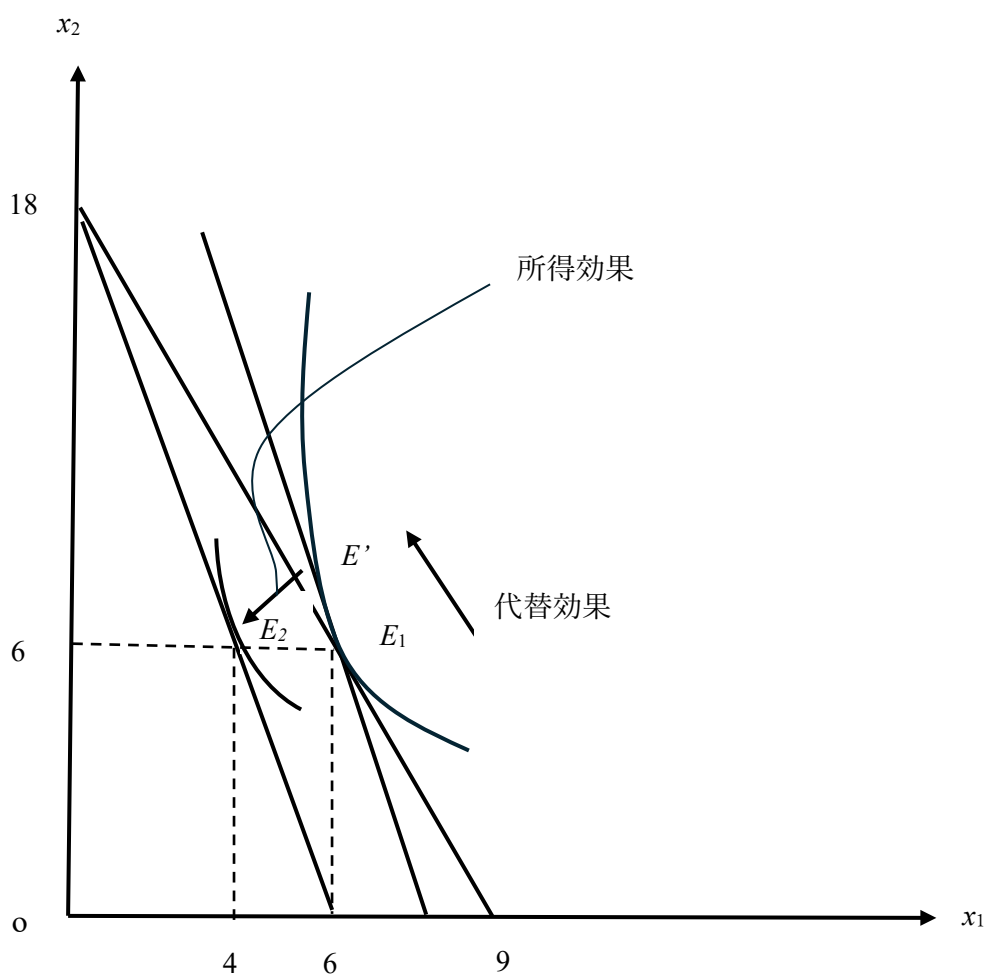
別紙 1

(1.4)



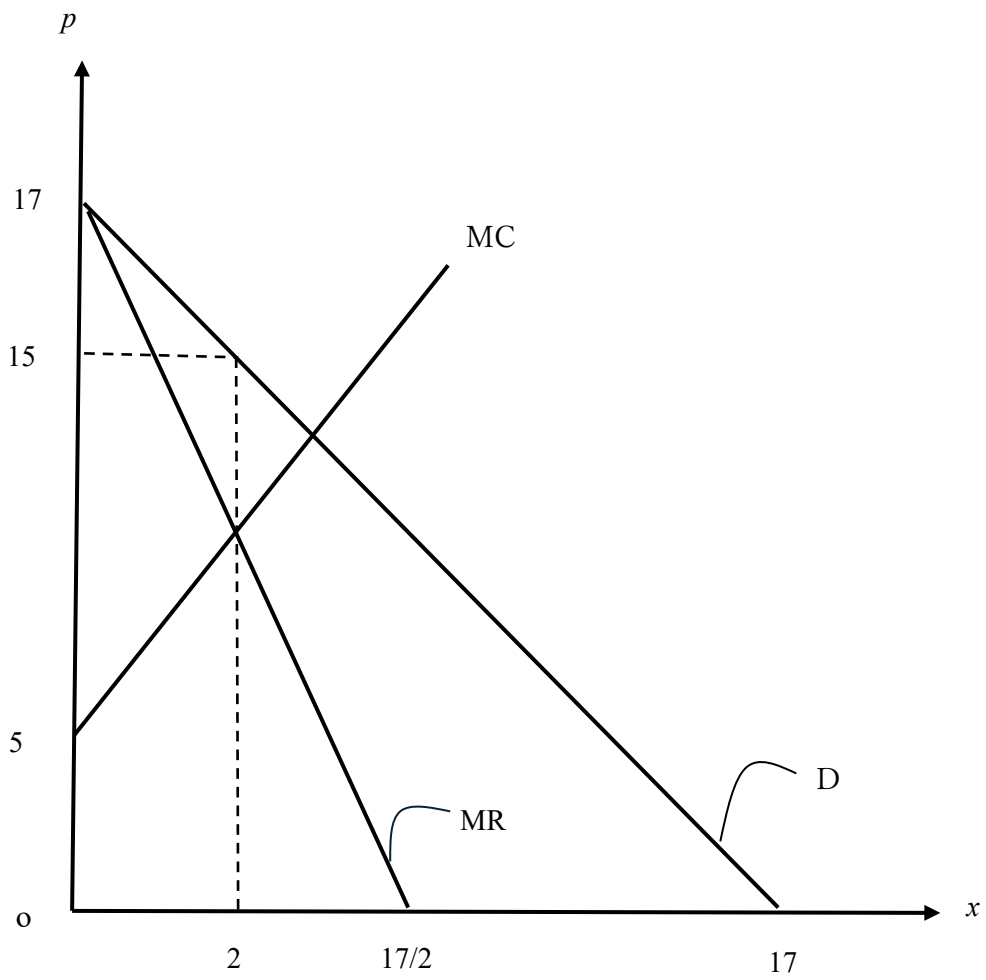
別紙 2

(1.5)



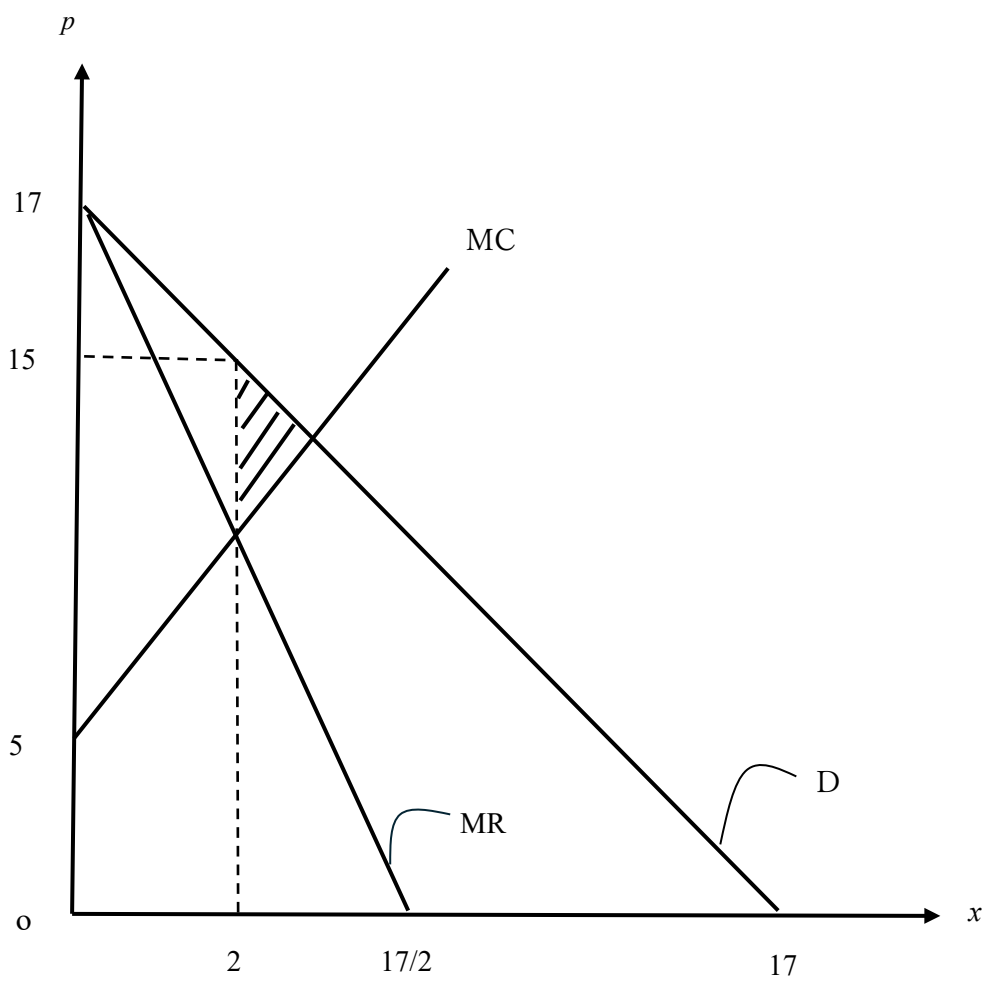
別紙 3

(2.2)



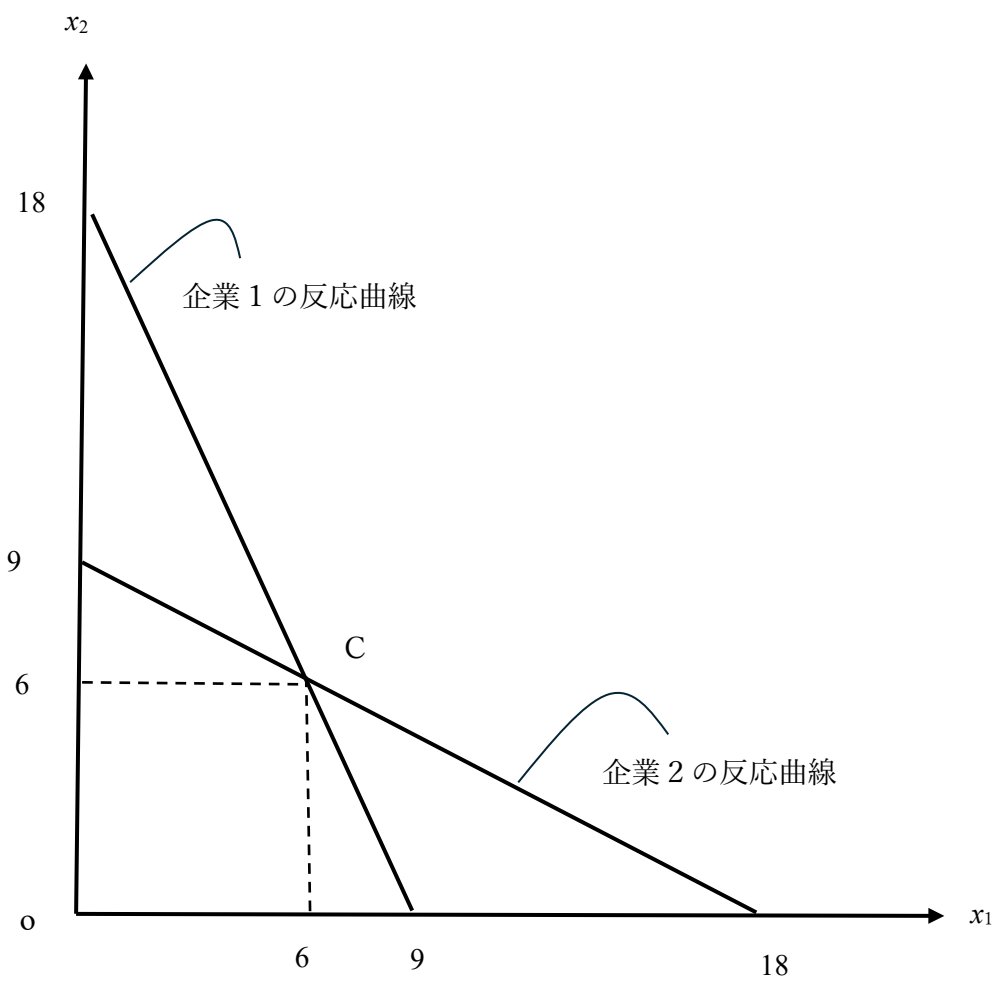
別紙4

(2.3)



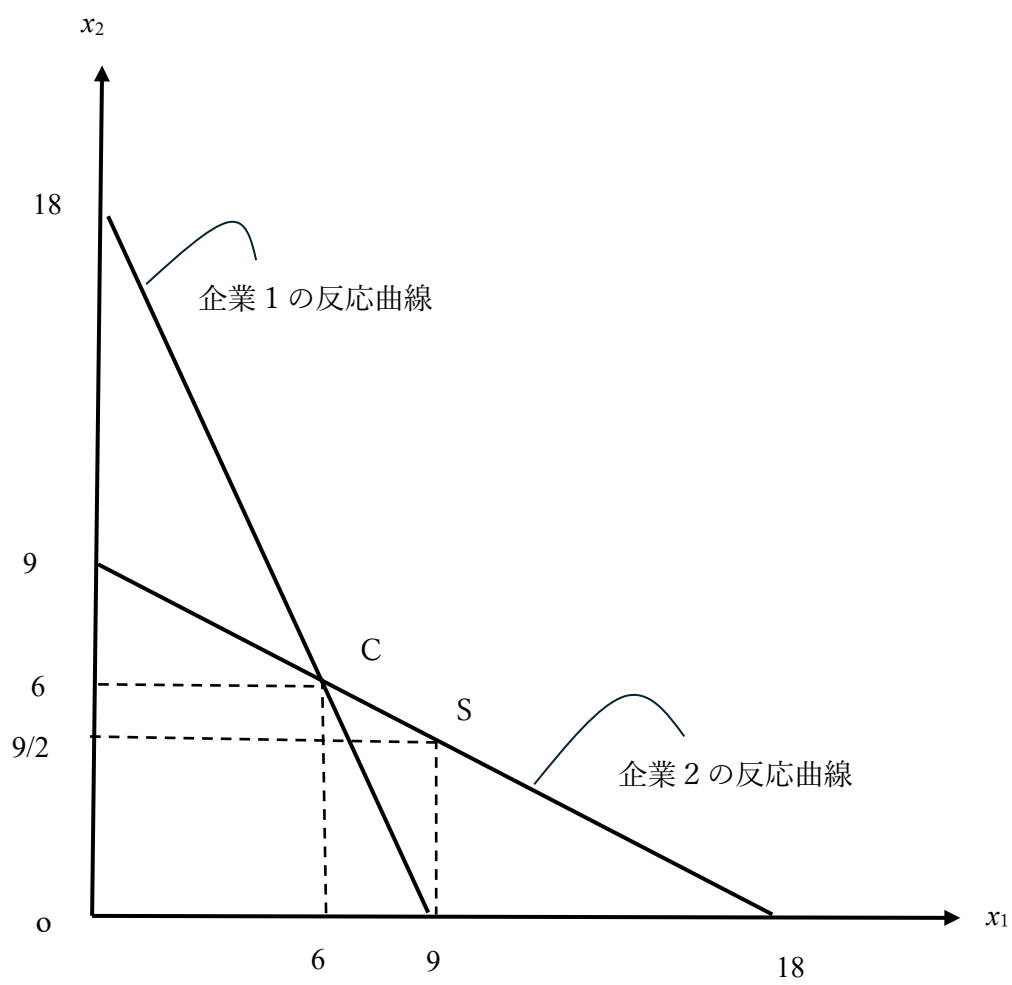
別紙5

(3.2)



別紙6

(3.4)



2026 年度入学試験（1 期）経済学研究科・修士課程
留学生入試 筆記試験問題
【専門科目：理論経済学】

2025 年 10 月 4 日（土）実施
東京経済大学大学院経済学研究科

* 解答は別紙の解答用紙に記入すること。

以下の設問すべてに解答しなさい。なお、解答の冒頭に、問題番号を記すこと。また、作図においては、縦軸名と横軸名を明記すること。

[1] x_1 財と x_2 財の 2 種類の財を消費する消費者の効用関数を $u = x_1^{2/3}x_2^{1/3}$ とし、所得を 18、 x_1 財の価格を 2、 x_2 財の価格を 1 とする。次の問いに答えよ。

1. 1) 上記の効用関数から限界代替率 ($= -dx_2/dx_1$) を求めよ。
1. 2) x_1 財と x_2 財の最適消費量を求めよ。
1. 3) x_1 財のみに 50% の消費税が課税されたときの x_1 財と x_2 財の最適消費量を求めよ。
1. 4) 1. 3) の消費税の課税前と課税後の最適消費点（それぞれ E_1 点と E_2 点）を無差別曲線と予算制約線を用いて図で示せ。図では、課税前と課税後の最適消費量の値を明記すること。また、縦軸に x_2 、横軸に x_1 をとり、課税前と課税後の各予算制約線の縦軸切片と横軸切片の値もすべて明記すること。
1. 5) 1. 3) の消費税増税の x_2 財の最適消費量に与える効果を、図を用いて代替効果と所得効果に分解し、それぞれの効果を矢印で示せ。解答では、どの矢印がどの効果に対応しているのかも図の中で明記すること。
1. 6) 1. 3) の問題で x_1 財への消費税の課税が x_2 財の最適消費量に与える影響がなぜ 1. 3) で求めた結果になるのかを代替効果と所得効果を考慮しつつ説明せよ。

[2] ある独占市場の需要関数を $d = 17 - p$ 、独占企業の総費用関数を $TC = 2x^2 + 5x + 10$ とする。 d は需要量、 p は価格、 TC は総費用、 x は生産量である。次の問いに答えよ。

2. 1) 均衡での価格、生産量、利潤を計算して求めよ。
2. 2) 均衡での価格と生産量を需要曲線(D)、限界収入曲線(MR)、限界費用曲線(MC)を用いて図で示せ。なお、図中での各曲線は D、MR、MC で明示し、均衡での価格と生産

量の値も明記すること。また、縦軸に価格、横軸に生産量を取り、各曲線の縦軸切片と横軸切片の値もすべて明記すること。

2. 3) 独占によって生じる厚生損失(welfare loss)を図で示せ(該当する部分を斜線で示すこと)。

2. 4) 2. 3) の厚生損失の値を計算して求めよ。

[3] 企業1と企業2の2企業がある市場で財を供給しており、その市場の需要曲線を $p = 19 - (x_1 + x_2)$ とする。2企業の費用関数は同一であり $c_i = x_i$ とする。 x_i は企業 i ($i = 1, 2$) の生産量、 p は価格、 c_i は企業 i ($i = 1, 2$) の生産費用である。次の問いに答えよ。

3. 1) 2企業がクールノー競争を行ったときの各企業の生産量と利潤をそれぞれ求めよ。

3. 2) 2企業の反応曲線を図で示し、クールノー(Cournot)均衡の点をCでマークして示せ。ただし、縦軸に企業2の生産量、横軸に企業1の生産量をとること。また、それぞれの曲線がどの企業の反応曲線に対応しているのかも図の中で明記せよ。各曲線の縦軸切片と横軸切片の値もすべて明記すること。

3. 3) 企業1が先導者(leader)、企業2が追随者(follower)として行動するとき、シュタッケルベルク(Stackelberg)均衡における企業1の生産量を求めよ。

3. 4) 3. 3) で求めたシュタッケルベルク均衡の点を3. 2) で作成した図中にSでマークして示せ。